

はじめに

熊本県では、県の取組みの基本方針である「幸せ実感くまもと4カ年戦略」を平成24年6月に策定し、「県民が幸せを実感できるくまもと」の実現に向け様々な取組みを進めており、当研究所は、4カ年戦略の安全安心な社会の構築の分野において、地域における保健環境の中核的試験研究機関として、県民の安全安心な暮らしを確保するため、感染症や食中毒、食品、大気、水質に関する試験検査、調査研究を行い、県が行政施策を展開するうえで必要な科学的根拠を提供しています。

平成25年度は、保健衛生関係では、食中毒や感染症発生時の原因究明や食品中の残留動物用医薬品の超過事案などに対処するとともに、日本脳炎など本県に特異的な感染症に関する調査研究、自然毒や化学物質に起因する健康危機事案発生時の迅速な行政対応に資するための迅速分析法の開発等に取り組みました。

一方、環境関係では、中国でのPM2.5による深刻な大気汚染が問題となり、国内でも大陸からの越境移流が確認されるなど、県民の関心も高く、健康への影響の不安も高まっていることから、PM2.5成分分析調査体制を構築し、PM2.5による大気汚染状況の実態調査や熊本県立大学と共同でPM2.5を含む大陸由来粒子状物質の電子顕微鏡による性状解析を開始するとともに、工場・事業場の排水調査、公共用水域や地下水の調査研究に取り組みました。

このたび、平成25年度の調査研究の成果を「熊本県保健環境科学研究所 所報43号」としてとりまとめましたので、御高覧いただき、御意見、御指導いただければ幸いです。

平成26年10月

熊本県保健環境科学研究所

所長 古田 祥史